

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境							0.33			1.9
1 音環境						2.4	0.15			2.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						2.6	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0		
2 界壁遮音性能						2.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0		
1.3 吸音						1.0	0.20			
2 温熱環境						1.3	0.35			1.3
2.1 室温制御						1.7	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						1.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						1.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						1.0	0.30			
3 光・視環境						1.6	0.25			1.6
3.1 昼光利用						1.8	0.30			
1 昼光率						1.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策						1.0	0.30			
1 昼光制御						1.0	1.00			
3.3 照度		作業面照度750lx確保				4.0	0.15			
3.4 照明制御						1.0	0.25			
4 空気質環境						2.6	0.25			2.6
4.1 発生源対策						3.0	0.50			
1 化学汚染物質						3.0	1.00			
4.2 換気						3.0	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能						3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33			
4.3 運用管理						1.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50			
2 喫煙の制御						1.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			2.9
1 機能性						2.4	0.40			2.4
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40			
1 広さ・収納性						3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						2.6	0.30			
1 広さ感・景観						3.0	0.33	3.0		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースとしてデッキバルコニー設置				4.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						2.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床塩ビシート20年、壁ビニルクロス20年、天井ボード類30年				5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		Bランク2種、Cランク1種使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.8	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		平均階高: 3.65m(事務所)、5m(加工工場)	4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率: 0.07	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.70	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.56	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		水洗及び大便器に節水機能があるものを使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場駐輪場を確保、敷地内アプローチを長くし周辺の渋滞を緩和	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光源は過剰な明るさが無いよう検討し、周辺環境へ合わせ選定	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	